

めでいかすとり
Médicastre



「大内宿」

第98回医師会勉強会抄録

期 日：平成 25 年 6 月 3 日 (月) 19：00～

場 所：鶴岡地区医師会館 3 階講堂



『 老化・再生からみた生活習慣病 』

新潟大学大学院医歯学総合研究科

循環器内科学 教授 南野 徹 先生

老化はすべての生物種において認められるがその形式は様々である。例えば、マウスの寿命は 2—3 年であるが、リスは 20 年以上も生きることができる。出産とともに寿命を全うする生物種も存在する一方で、ある種の魚やカメなどは、あたかも老化していないかのように見える。同一の生物種間、例えばヒトにおいても、その寿命の長さの相違が明らかである。このような多様性の存在にも関わらず、老化の過程は無秩序に生じるものであると考えられてきた。それに対して最近の研究では、老化は秩序ある制御機構を持った生物学的な過程であることが明らかとなりつつある。

加齢に伴って、糖尿病や動脈硬化、高血圧などの生活習慣病の罹患率が増加し、その結果、虚血性心疾患や脳卒中の発症の基盤病態となっている。これらの疾患は、多くの高齢者において共通に認められることから、老化の形質の一部として捉えることができる。すなわち、これらの疾患の究極的な治療のターゲットは、寿命を調節する仕組みそのものかもしれない。しかし、これまで加齢に伴って個々の病態がどのように変化するかという観点からの研究は行われてきたが、老化・寿命という側面からみた包括的な研究は行われていない。

このような現状で、老化・寿命のメカニズムの解明に関する研究は、最近 10 年間で飛躍的な進歩を遂げている。老化のメカニズムについては諸説あるが、そのひとつが「細胞老化仮説」である。近年、動物モデルにより老化の分子メカニズムが明らかになり、老化や加齢に伴う疾患において、細胞老化の重要性が示唆されている。本講演では、細胞老化に重要なシグナル分子である p53 がどのように老化や加齢に伴う疾患の病態生理に関与しているかについて概説する。

鶴岡地区医療学術懇話会

期 日：平成 25 年 5 月 22 日(水) 19：00～
場 所：ベルナール鶴岡

アルツハイマー型認知症治療最新の話 ～認知症治療薬の使い方、私はこうしている～

信州大学医学部附属病院
脳神経内科、リウマチ・膠原病内科 教授 池田 修一 先生

認知症とは脳の後天的で広範囲な器質性病変に起因し、徐々に出現して不可逆的な経過をとる疾患である。主症状は記憶力低下、見当識障害、易興奮性などであり、社会生活・就労が困難となる。本邦では200万人以上の患者がおり、今後も増加の一途を辿ることから、大きな社会問題となっている。

認知症にはアルツハイマー型（AD）を始め複数の種類があるが、患者の8割はADと考えてよい。認知症の原因としては、家族歴、遺伝的なものがあげられるが、高血圧、糖尿病などの生活習慣病の有無も大きく関係する。認知症と物忘れの鑑別には、日常生活に支障を来しているか、また記憶力低下のみでなく複数の認知機能の障害が認められるか否かが重要なポイントとなる。

治療は、認知機能に関与する神経伝達物質の補充療法が第一選択となる。記憶に関与する神経伝達物質としてアセチルコリンがよく知られ、これまではドネペジルを用いてアセチルコリンを増やす治療が行われてきたが、2011年に新薬が3剤発売され、治療の選択肢が拡大した。中でもガランタミンは、従来のドネペジルには無かった、神経シグナル伝達の感受性を亢進する作用機序を有するため、脳全体の神経細胞を賦活するので、様々な臨床症状を改善する。実際にガランタミンを使用して著明な効果が見られた自験例を本講演でも報告させて頂いた。また、生活習慣病への介入も認知機能悪化の抑制には重要となる。

やまがた健康塾25

期 日：平成 25 年 5 月 30 日(休)
場 所：鶴岡地区医師会館 3 階講堂

『輝く瞳をいつまでも ～80歳になっても自分で新聞が読めるように～』

福原医院 福原 晶子

山形県医師会と読売新聞山形支局・山形県読売会が主催する「やまがた健康塾」も、回を重ねて第25回となり、鶴岡地区での開催も3回目となりました。内科、整形外科と続いた後を、「輝く瞳をいつまでも～80歳をすぎても自分で新聞が読めるように～」と題して、中高年に多い眼疾患を中心にお話させていただきました。当日は約50名の方のご参加がありました。

中高年の視力障害を来たす原因(図1)として、代表的なものは、白内障、緑内障、加齢黄斑変性症、糖尿病や高血圧などに起因する眼底出血などが挙げられます。また、実は、眼鏡が合っていないために視力が低下したと勘違いして、眼科を受診される方も多くいらっしゃいます。特に、老眼鏡がきちんと使えていない例が多く見られます。眼鏡作成の際には、まず、手持ちの眼鏡を全て持参して、眼科で眼疾患の有無を検査し、その上で用途に合わせた眼鏡を合わせる事が重要です。

白内障は、水晶体のたんぱく質が変性するこ



とにより、本来透明な水晶体が白色化あるいは黄色化し、透明性が低下した状態です。白内障の原因(図2)は、そのほとんどが加齢で、80歳台の罹患率は100%です。つまり、白内障は程度の差はあれ、年齢を重ねれば誰でも起こってくる変化です。それ以外には、先天性のものや、他の要因、特に糖尿病や放射線、ステロイドなどでも発症します。治療として確実な方法は手術です。現在の白内障手術は、比較的短時間で、痛みも少なく行なえるようになってい

ます(図3)。緑内障(図4)は、眼圧の影響で、視神経が

高齢者の視力低下の原因

- ・ 白 内 障
- ・ 緑 内 障
- ・ 加齢黄斑変性症
- ・ 眼底出血
高血圧、動脈硬化、糖尿病
- ・ 屈折異常(眼鏡が合わない?)

図 1

一般的な白内障手術の流れ

図 3

白内障の原因

- ・ 加 齢
- ・ 先 天 性
- ・ 他の要因によるもの
糖尿病、紫外線・放射線、ステロイド、外傷、眼内炎

図 2

緑 内 障 と は

眼圧の上昇により、視神経が障害され、視野欠損・視力障害が出現する病気
近年では成人失明の第一位

図 4

障害され、そのために視野異常や視力障害が出現する病気で、最近では成人の失明原因の第一位になっています。中高年の 5%前後の方が緑内障に罹患しており、決して稀な疾患ではありません。また、日本人では、眼圧がいわゆる正常範囲内なのに緑内障になる「正常眼圧緑内障」が多いことがわかっていて、眼圧検査だけでは診断できない状況です。それでは、どうやって緑内障を診断するかと言うと、視神経乳頭の形状を観察することと視野検査です。緑内障の視野異常は、鼻側から始まるため、(鼻側の視野は、両眼が重なっているため)自分では気がつきにくく、そのことが、発見が遅れる原因です(図 5)。早期発見がとても重要になりますが、そのためには、健診やドックなどの眼底検査を利用したり、眼鏡を作成する際や運転免許更新時には眼科を受診し、視神経や視野の検査をすることが大事です。一般的に、緑内障の治療は点眼治療です。眼圧を下げ、進行を緩やかにすることが目的です。最近では、効果の強い薬剤があり、きちんと治療することで、視機能を保つことができることが多く、定期的な検査と治療を継続することが重要です。

急激な視力障害を来す疾患として、眼底出血があります。糖尿病による糖尿病網膜症は、

以前は失明原因の第一位でした。現在は眼科的な治療の進歩で、失明を免れることも可能になってきていますが、特に、黄斑症を発症すると、良好な視力を維持することは困難です(図 6)。網膜症は、血糖コントロールが悪いと発症しやすく、一旦発症すると、どんなに血糖が良くなっても、網膜症が進行することがあります。糖尿病網膜症で失明しないために、糖尿病を発症して 10 年程度経過した人、あるいは血糖コントロールが不良な人は、定期的に眼科で眼底検査を受けましょう。網膜症が発症した場合には、それまで以上の血糖コントロールが最も重要で、場合によっては網膜光凝固や硝子体手術などの治療も必要です。

最近増加している、高度な視力障害を来す眼底出血に、黄斑変性があります(図 7)。欧米では失明原因の第一位で、日本では以前はとても珍しい病気でしたが、食生活の変化や、紫外線・喫煙とも関連し、特に男性に多い滲出型黄斑変性では、重篤な視力障害を引き起こします。最近、抗血管内皮増殖因子薬(抗 VEGF 薬)療法という、黄斑下の網脈絡膜新生血管を抑制する働きのある薬剤を眼内に注射する治療が行なわれており、一定の成果を上げていますが、完全に治癒するわけではなく、進行を食い止める目的と考えた方が良いでしょう。

最後に、自分の目を自分で守るために、中高年以降は、年に 1 回は目の検査をすることをお勧めします。自覚症状がなくても、健診やドックを受けるのと同じです。また、健診やドックを利用することもできますが、そこで全ての疾患がわかるわけではありません。あくまでも、そこでわかる異常はごく一部分なのです。

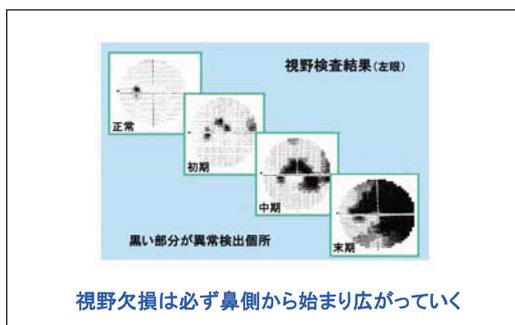


図 5

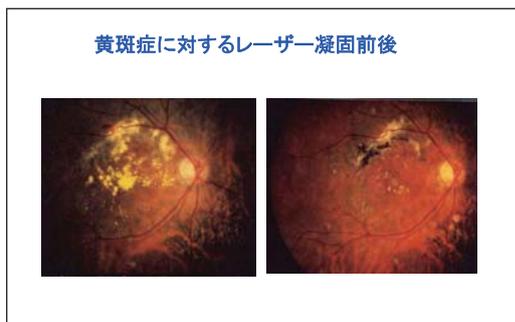


図 6

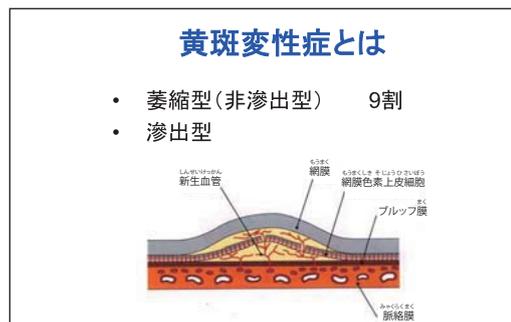


図 7

第98回定時総会・観桜会

期 日：平成 25 年 5 月 31 日(金)
場 所：ベルナール鶴岡

一般社団法人となり初めての定時総会が、5月31日午後6時30分からベルナール鶴岡において開催されました。

議事は、三浦議長の進行で始まり、三原会長のあいさつ・平成24年度会務報告が行われ、平成24年度にお亡くなりになられた福原美和子先生、福嶋茂樹先生、遠藤勝彦先生、真柄三夫先生に対し黙祷を捧げ弔意を表しました。

議案については、平成24年度各事業所事業会計収支計算書及び財務諸表などの第1号議案から第3号議案までいずれも原案どおり承認されました。

場所を移動して行われた観桜会には、会員の先生方が47名出席され、職員18名の総勢65名の参加となりました。小野総務担当理事の司会進行により、三原会長のあいさつと新入会員の紹介が行われ、当日出席されている武田憲夫先生、真島英太先生、佐藤陽子先生からご挨拶をいただき、三浦議長の乾杯の音頭で歓談となりました。

宴もたけなわの中、顧問の齋藤壽一先生より中締めのご挨拶があり、最後に一本締めで閉会となりました。

臨床検査課長 亀井 誠



准看護学院 2 年生研修旅行

期 日：平成 25 年 5 月 15 日(水)～17 日(金)

とにかく東京は暑かった！ 1 日めはグループ別行動、2 日目は国立療養所多磨全生園と国立ハンセン病資料館の見学、3 日目は団体行動と、しっかり学び、クラスメイトとの親睦を深められた充実の 3 日間でした。

齋藤 郁美

今回、2 泊 3 日の研修旅行ではたくさんの思い出を作ることができました。ハンセン病について深く学び無知の恐ろしさを実感しました。何も知らない状況で外見や症状のみで判断することはどれほどハンセン病患者さんを苦しめたかを想像した時、やりきれない思いになりました。現在、医学が発達しハンセン病の感染力の弱さが証明されたにも関わらず、後遺症で苦しんでいる方が多いことに衝撃を受けました。2 日目の夕食は全員でご飯を食べ、写真を撮ったり思い出を作ることができました。先生方と一緒に写真を撮りクラスメイトと騒いだり想像以上に楽しめました。

3 日目のジブリ美術館はとても感動して興奮してしまいました。そして、何と言っても輪島功一さんに会ったことは衝撃的で一生の思い出になりました。できれば終わってほしくなかった研修旅行もついに終わり、あとは現実と向き合うのみとなりました。6 月から始まる実習に向けて事前学習から気を引き締めてがんばっていきましょう。

鈴木 咲結

多磨全生園の見学をとおして学んだことはたくさんあります。以前よりは偏見や差別はなくなったけど外見による差別はまだあると感じました。

1 日目の自由行動では班の人と一緒に楽しく行動することができました。全員が集合時間などルールを守って行動でき良かったと思います。この 3 日間では今まで以上にクラスの人と

話す場面があり、ますます仲良くなれたと感じます。旅行委員としては自分なりにがんばることができました。これからもたくさんのことに挑戦しがんばっていききたいです。

遠藤 美羽

講義を受け、私が思っていた以上の今までの歴史におどろかされました。敷地内は一つの街でなんでもありました。郵便局、ショッピングセンター、納骨堂までありました。しかし、今までの歴史を考えると複雑な思いでした。何名かの患者様とも接することができました。義足だったり手指がなかったり、障がいはありますが、自転車に乗り、自立できるように工夫し生活しようとしている前向きさを感じました。A さんは足の切断部・手指を私達に触らせてくださいました。手指は乾燥し固くなっており足は義足で歩くために筋肉がしっかりついていました。何より患者さんたちは明るく笑顔が素敵でした。講義で学んだこと、見学を通して感じたこと、この貴重な体験を忘れずに大切に看護師になりたいと思いました。



三鷹の森 ジブリ美術館



国立ハンセン病資料館

第10回鶴岡地区医師会ゴルフコンペ

期 日：平成 25 年 5 月 26 日(日)
場 所：湯の浜カントリークラブ

「鶴岡地区医師会親睦ゴルフコンペ」に優勝して

三井病院
三井 盾夫

去る5月26日に湯の浜CCで行われた上記大会に凶らずも優勝しました。同伴者は中村誠一先生、福原晶子先生、石原良先生でした。

スコアはアウト41、イン44でした。専ら私、この10年毎朝のように朝の5時頃から6時過ぎまで練習してるのに、そのショットもまらずなのに、週刊ゴルフダイジェストを毎朝サウナの中で熟読しているのに、2年前からは林史将プロにラウンドレッスンをしてもらってるのに、今年70才で前方の金色のティーから打てるようになったのに、ライバル小野寺先生にもこの数年間やられてばかりで、なかなか100を切れなくて悶々としていたところでした。時に90台で「開眼したぞ！」と家内に報告すると「どこの海岸よ」などと言われる始末なのでした。そこへもって突然の85点です（パット数31これもなかなかの



もの)。パートナーと天候に恵まれたとはいえ、この調子を何とか続けたいものだと思心決めていた今日この頃です。

さて、医師ゴルフ同好会の幹事としては、同好会もそうですが本大会も医師だけでなく従業員や奥様方の参加をすすめて、より盛り上げたものと考えます。

第 10 回 鶴岡地区医師会親睦ゴルフコンペ参加者名簿

組み合わせ

- 第1組：伊藤 末志、内山 聖、若山 浩一、今井 誠
 第2組：三原 一郎、三原 美雪、鈴木 伸男
 第3組：小野寺 俊直、佐藤 満雄、佐藤 慎二、菅井 健
 第4組：三井 盾夫、石原 良、中村 誠一、福原 晶子

競技方法：ダブルペリア 打数制限：ダブルパー HDCP上 男：36.0 女：36.0 HDCP下 男：0.0 女：0.0

順位	競技者名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優勝	三井 盾夫	41	44	85	10.8	74.2
準優勝	佐藤 慎二	42	44	86	10.8	75.2
第3位	佐藤 満雄	50	46	96	20.4	75.6



YBCラジオ番組「ドクターアドバイスできょうも元気」の放送について

月曜日から金曜日までYBCラジオの健康情報番組「ドクターアドバイスできょうも元気」を放送中です。

当地区の担当は下記のとおりです。ぜひご聴取ください。

【放送時間：月曜日から金曜日 6時30分～6時45分、12時40分～12時55分】

放送日	テーマ	出演者	所属医療機関名
7月15日～19日	任意接種ワクチンで防げる子どもの病気	今立 明宏 先生	今立小児科医院
7月22日～26日	子供の中耳炎	伊藤 茂彦 先生	伊藤耳鼻咽喉科医院
7月29日～8月2日	ピロリ菌と胃疾患	佐藤 孝司 先生	宮原病院

九州旅行記②

よこやま皮膚科医院 横山 靖

続きはずいぶん先になるだろうと思っていたが、このごろ物忘れのひどい私の記憶が薄れるのを編集部が心配してくれたのか、旅行 2 日目、3 日目と続けて書くことになった。その方が読んでいただく方にも流れがわかるので、こちらとしてもありがたい。伊万里の翌日は柳川に行く予定なのだが、朝食も取らずにまず JR 博多駅に向かう。もちろん柳川に行くなら西鉄の天神駅から特急で直通だが、その前に寄りたところがあった。朝から食べたいものがあるのだ。それは JR 鳥栖駅構内の立ち食いの『かしわうどん』。知る人ぞ知る B 級グルメ、しかも 5・6 番線のホームのものがおいしいらしい。しかし、JR 博多駅に着いてみるとダイヤが混乱している。昨日、伊万里でたたられた雨が他の地域ではけっこうな大雨だったらしく、JR 特急は軒並み遅れ、いつ出発するかわからない状態だった。仕方なく各駅停車で鳥栖駅に向かう。電車は空いていたし、寝覚めのコーヒーをすすりながら、ゆっくり旅するのもいいものだ。それにしても九州の駅名には興味深いものが多い。鳥栖は佐賀県にあり、JR の鹿児島本線と長崎本線が分岐する交通の要衝である。駅舎は明治 44 年に完成したもので、さすがに屋根や外装は新しくなっているが、駅舎の中はレトロな雰囲気のため、懐かしさを感じさせるものだ。かしわうどんの立ち食いは中央軒が出しており、煮干し、昆布の効いた透明なツユがおいしく、柔らかいうどんの上には、甘辛く炊いた鶏肉がタップリ乗っていてすこぶる美味であった。ダイエット中でなければ、朝から軽く 2 杯はいける。うどんは柔らかいと書い



鳥栖のかしわうどん

たように、コシはなく京都のうどんのような感じ。これは福岡も含め、あの辺りのうどんの特徴である。九州新幹線は鳥栖駅を通らず、一駅先にできた新鳥栖駅に止まる。この新鳥栖駅にも中央軒の立ち食いがあり、新幹線を利用する人は、新鳥栖駅で食するのがいいと思う。ちなみに鳥栖にはみなさんも処方されるモーラスを作っている久光製薬の本社がある。また鳥栖駅の駅舎の反対側にはサッカー・Jリーグのサガン鳥栖の本拠地のスタジアムがあり、6 番線のホームからよく見える。遅めの朝食後は、本日の目的の柳川に向かうため、6 番線から鹿児島本線の各駅停車に乗り、久留米を目指す。といっても、久留米は鳥栖からわずか 2 駅目だが、ここは福岡県である。柳川には JR は走っておらず、タクシーで西鉄の久留米駅に移動しなければならない。東京では JR と私鉄は駅を共有し、だいたい歩いて乗り換えできるものだが、西鉄の場合、福岡もそうなのだが JR の駅からはずいぶん離れた場所に駅がある。面白いことに福岡の西鉄の始発の天神駅も西鉄久留米

駅も、JRの博多駅や久留米駅よりも駅周辺は賑やかで繁華街になっている。きっと福岡県は西鉄とともに街が発展してきたのだろう。西鉄久留米駅から特急に乗り、柳川へ着いたのだが、かしわうどんを食べなければ、福岡からは西鉄特急に乗れば、わずか50分ほどで柳川に着く。特急といって特急料金は必要ない。柳川といえば北原白秋のふるさと、水郷の街でもあり、船頭さんの漕ぐ船に揺られての運河めぐり有名である。乗船チケットは駅の一角で購入でき、船着き場までは離れているが駅から無料の送迎バスが出ている。船着き場に着くと、若い子連れのお父さんが猛然とダッシュ、船の先頭に乗りたかったのだろう。しかし、前日の雨の影響で運河にかかる橋のたもとがぬかるんでいたため、そのお父さんはあえなくそこで転倒、バスの乗降口近くに座っていて早く下りられた私たちが思いがけず一番乗りとなり、船の先頭に座ることになった。船に腰を下ろすと後ろで「あなたはこっち側がいいわね。」という声が聞こえてきた。年配のご夫婦なのだが、旦那さんの方は私と同じくらい体重が重そうである。確かに私と同じ側に座っては船が傾き、さすがのベテランの船頭さんも真っ直ぐには進めそうもない。「船の安全のためには、奥さんが言うようにお互い反対側に座った方がいいです



柳川の運河



柳川のせいろ蒸し

ね」と話しかけると大笑いになり、出航までの間、ひとしきり会話が弾む。船頭さんの名調子を聞きながらの運河めぐりは揺れもなく快適だったが、何か所かくぐる橋は大変だった。普通に座っていても完全に橋に頭がぶつかる。体を90度ぐらゐまで折り曲げて、橋をやり過ごすのだが、私の場合立派なお腹が邪魔して、けっこう苦しかった。やっぱりヤセなければ、と実感した。船頭さんはいろいろ由緒ある場所を説明してくれたが、なぜか覚えているのは妻夫木聡くんの通った小学校と松岡修三選手がわざわざ東京から転入した柳川高校のテニス部の合宿所。柳川高校はテニスの名門とのこと、どちらも運河沿いにあるのだ。運河沿いの家々はどこも裏口の方から運河に出られようになっている、家から釣りもできる。昔は、ウナギがよく釣れたそうだ。そう、柳川といえばウナギが名物なのである。特に有名なのがウナギのせいろ蒸し。東京のウナギは蒸してから焼く、大阪のウナギは蒸さずに焼きだけ、柳川のせいろ蒸しはタレをまぶして茶色になったご飯の上に、焼いたウナギを載せ、さらに錦糸卵を載せて、料理としてほぼ完成した鰻重を、そのまま蒸すのだ。こうすることによって焼いたウナギの旨味が下の御飯にジンワリと沁み込む。ただでさえ

タレをまぶしておいしいご飯はさらにおいしくなり、ウナギも柔らかく、とろける味わいとなる。しかもお重ごと蒸して熱々なので、最後までウナギもご飯も冷めずに食べられる。冷たいビールに熱々のウナギ、最高！！ 遠く柳川まで来てよかった、もうすっかり北原白秋のことなど忘れてしまった。食後は運河沿いをプラプラ歩くと魚屋があり、ムツゴロウやシャコなどとともにワケノシンノスというイソギンチャクが山のように売られていた。柳川ではこのイソギンチャクを味噌煮にしたり味噌汁にしたり、唐揚げにしてお酒の当てにしたりして食べるそうだ。ワケノシンノスとは「若者のお尻の穴」という意味で、きっと運動部の男子のプリプリしたお尻のイメージなのだろうか。次回来た時にはぜひ食べてみたいものだ。柳川では有明海名物の海茸の粕漬けをたくさん購入、これは

私の大好物なのである。海茸とは有明海で採れる大きな二枚貝で、海茸と書くように、海のマツタケとも呼ばれているらしい。この貝の水管を粕漬けにしたもので、独特のコリコリした食感がたまらない。辛口でもいけるし、酒のつまみにはピッタリである。この日は有明海一番奥まった所にある佐賀県の太良町の温泉に泊まるので、まず佐賀まで移動しなければならない。朝のルートを逆に戻り、久留米からまた JR に乗り佐賀に向かうのもつまらない。柳川駅から県境を越えて佐賀駅まで路線バスがあることがわかった。JR 佐賀駅までは 50 分ほど、今流行の路線バスの旅の気分で、のんびり移動することに決めた。なぜ、わざわざ有明海の田舎の港町に宿を取ったか、もちろん飛び切りのグルメが目的なのだが、そのあたりのことは次回に書きたいと思う。

「相棒」 わたしのお気に入り

さて突然始まったこのコラムは会員の皆様のお気に入りを紹介してもらおう新企画です。マイペット&マイホビーの長い文章は気が重くて引き受けたくない方でも、お気に入りの物（趣味の品、ペット、本、音楽 etc）・料理・風景など何でも結構ですので、1 枚の写真とエピソードを短文で紹介して頂く気軽なコラムにしたいと思います。

1 回目は私のオートバイ、98 年式 Harley Davidson Sportster 1200S です。埼玉、神奈川そして庄内と、これまで共に走ってきた 15 年来の相棒です。自分が乗りやすいように細かな改造を施しています。今ではお互い少しくたびれてきていますが、まだまだ乗り続けていきたいと思っています。

(学術広報委員 今立)



会津藩は激動の渦中にあった。やがて、68（慶応 4）年の戊辰戦争の勃発により、会津藩は官軍からの猛攻撃を受けることになる。権兵衛は政務につきながら、進んで城外の将として攻防の前線にも立った。籠城に際しては、糧食を城内に送る戦術を考案し、士気を高めた。藩の存亡をかけた戦は、権兵衛にいかなる寧日も与えなかった。

9 月 22 日、戦い破れた会津藩は開城し、降伏する。世は明治となり、新政府による厳しい制裁、戦後処理が始まった。藩主父子の助命嘆願には功を奏するが、やがて「首謀の者を誅すべし」という詔書が下された。

会津側からは「家老田中土佐、神保内蔵助、萱野権兵衛の三人が首謀者である」旨の答申が出された。田中、神保はすでに自刃しており、それは事実上、権兵衛のみが首謀者として藩主の身代わりとなることを意味した。

69（明治 2）年、5 月 18 日、萱野権兵衛切腹。刎首の刑とされたが、東京広尾の保科邸で執り行われたのは武士の名誉を全うさせる切腹であった。古式にしたがって介錯をした沢田武司によれば、権兵衛は切腹に臨んでも「従容自若、顔色毫も変えず」、平生のごとくであったという。そして沢田は、「この人は神か」と目を見張ったという。藩士全体の責を一身に背負い、従容と散華した萱野権兵衛の姿こそ、会津士魂そのものであった。

原風景・会津に似た庄内で

庄内に居を構え、いわば他藩で学徒となる三淵忠彦は、従兄弟の悲しい話を忘れまいと誓っていた。

萱野権兵衛の次男で郡姓を継いだ長正は、斗南藩からの留学生として 70（明治 3）年に小笠原藩（福岡県）に派遣された。勉学のかたわら剣道を能くし将来を嘱望されていた。長正は会津藩と小笠原藩との剣道の対抗試合に主将として戦い、見事勝利を占め、その責任を果たす。が、この日明治 4 年 5 月 1 日、会津藩士として恥ずかしいことした、藩の名誉を汚したこ

とをお詫びするとして自刃する。享年 15、死の原因については後世の創作とするものもあるが、以下の話に類することが長正の周辺にあったことは間違いない。

長正は母への手紙に「こちらの食事はまずい」とひとこと書き加えた。折り返し母から父の遺言と会津藩の士風を説いた手紙が届き、その末文に「お前が食物のことで弱音を吐くのはもってのほかです」と戒めの言葉が書いてあった。この手紙をどうしたことか落としてしまい、これを拾い内容を読んだ小笠原藩の生徒は「食客のせいに食物の不满を云うとは何事か」、「会津藩の武士道とは食物のことか」と、公衆の面前で長正を罵倒したと云う。潔さを愛し、名誉を重んずる会津の子弟の自死には、この説が正しいと思えてしかたない。

朝敵・逆賊という汚名を浴びせられながらも奮起し、後世、名を成した会津出身の人物は多い。それを可能にしたのは、武士道という強い倫理観で藩風がつくられ、それを支える教育秩序が徹底していたからである。司馬遼太郎は、「会津藩というのは、封建時代の日本人がつくりあげた藩というもののなかで最高の傑作」（『歴史を紀行する』）とまで語る。

庄内藩もまた、徳川家への忠誠心をもってなる醇厚な家風という点では会津藩に似ていた。大事に際しては沈毅・沈勇を旨とし、会津の日新館に相当する藩校致道館では、古典を重視するアカデミックな教育が貫かれていた。そして何よりも、1868（明治元）年に東北列藩同盟に先駆けて同盟を結んだ友藩であった。

父と伯父、そして従兄弟が体現した会津の魂は、三淵忠彦にしっかりと受け継がれていた。彼は、三河武士の生真面目な藩風と豊かな領土とで形成された庄内の風土に己の精神の原風景を見たにちがいない。素朴な風俗と厚い人情をもつ庄内は、まさに会津そのものでもあった。故郷に似た地・庄内で、三淵忠彦の青春時代は始まった。

表 紙

「大内宿」

佐藤 洋司

会津大内宿は、昭和56年に重要伝統的建造物群保存地区に指定され、昔は会津若松と日光を結ぶ会津西街道の宿場町として使われ、その後一時寂れていましたが、旧本陣や茅葺屋根を復元して今では往年の姿を思わせるただずまいとなっています。最近は観光客も増えて年間100万人を超えます。

さて、そこに行ったらぜひ味わっていただきたいのは「高遠そば」です。箸の代わりに一本ネギを使い、薬味としても食べるのです。高遠そばの由来は会津の殿様（保科正之）が信州高遠で育ち会津藩主になって以来です。ぜひお勧めします。

編 集 後 記

春先の不順な天候とは打って変わり、雨も少なく、暑い日が続いています。朝晩は、肌寒いこともあります。皆様、体調など崩されてはいないでしょうか。めでいかすとる 6 月号をお届けします。医師会勉強会、各種講演会の抄録から、医師会行事の報告、旅行記など、内容は盛りだくさんです。

会員以外のたくさんの方々にもお読みいただき、お楽しみいただいていることをお聞きすることもあり、編集委員として、如何に誌面を充実させていけるか、編集会議の際には、委員皆で知恵を絞っています。

医師会の広報誌である本誌は、医師会の活動を知っていただくことが目的でもあるのですが、今年の1月22日から、三原会長がイントラネット上で「医師会長だより」を、ほぼ毎日配信しています。その目的は、「医師会の課題として、執行部と会員との間に距離があること。会長から会員に向けて、今医師会が抱えている課題や個人的な想いやその時々のお話などを情報発信することで、執行部と会員との距離を少しでも短くすること」と書かれています。

超多忙な中、すでに100回を超え、その内容も、連日の会議や委員会の報告だけではなく、最近凝られている写真の公開など、難しいものではありません。

是非、会員の皆様には、御覧になっていただきたいと思います。イントラネットのML上での公開ですが、この度、インターネット上のブログにアップして下さいました。イントラネットへご加入でない方は、こちらのアドレスから御覧いただけます。

(<http://blog.goo.ne.jp/ic2hymihara>)

また、どうしても見られない方には、ご連絡いただければ、プリントアウトしてお届けすることも検討いたします。

(福原 晶子)

編集委員：伊藤 茂彦・福原 晶子・石原 良・中村 秀幸・斎藤 高志・今立 明宏

発行所：一般社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1-34

TEL 0235-22-0136 FAX 0235-25-0772 E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp

URL <http://www.tsuruoka-med.jp>